
ウルトラマン～Firstcontact～ 光の幻影

77オトシゴ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウルトラマン〜First contact〜 光の幻影

【Nコード】

N4963Z

【作者名】

77オトシゴ

【あらすじ】

前作「ウルトラマン〜First contact〜」でのゼットンとの死闘から3年後の物語。

地球の怪獣出現は後を絶たず、ウルトラマンが去った地球は、科特隊が守り続けていた。
そしてある日、一つの事件を皮きりに3年前の死闘と巨人の記憶がよみがえる。それは光の再臨か。それとも破滅への歩みか……。

第1章「Second Coming of Giants」? (前書き)

どうも。

前作から読んでいただいている方はお久しぶりです。

初めて読む方は初めまして。

初めて読む方は前作「ウルトラマン」First contact」
を読むことを推奨します。この作品をより楽しむことができます！

第1章「Second Coming of Giants」?

プロローグ「光照らすその先で」

ゼットンとの死闘から3年。

ウルトラマンが去った地球は、科特隊が守っていた。

怪獣の出現は後を絶たず、科特隊は激動の日々を送っていた。

それはハヤタも変わらずであった。

「祠……ですか？」

「ええ。そうです」

ハヤタはある集落に単身、聞き込みに来ていた。

「その祠はどこにあるんですか？」

「この先の山奥です。険しい山で、昔は祠の手入れなんかもよく行われたんだけどねえ。今は老人ばかりでどうにも……」

「その祠には何を祀ってあるんですか？」

「なんでも、大昔にその山に降り立った巨人様を祀ってあるとか。

この辺は、大昔に化け物が住み着く場所だったらしくて。人間たちが困っているところに、巨人が現れ、化け物たちを退治したって話があるんです」

「巨人……」

ハヤタは3年前に思いを馳せる。今でもあまり実感はなかったが、それは事実であった。

「ウルトラマン……か」

怪獣たちとの戦い。

ウルトラマンとして戦ったこと。

そして、ウルトラマンが消えたこと。

思い出せることと、思い出せないことの狭間でハヤタはまだ苦しんでいた。

「あの、大丈夫ですか？」

「……あつ！すいません。先日連絡されたことを詳しく聞きたいのですが」

「はい、それはですね……」

Afterstory第1章「Second Coming of Giants」

その集落から連絡が来たのは、ハヤタが集落を訪れる1日前だった。

「ハヤタ隊員！ちよつと！」

「なんだいフジ隊員」

「あなたに行つてもらいたい場所があるのよ」

「何か事件かい？」

「まだ事件つてほどでもないけど……。さっき、この集落から連絡があつたのよ」

フジ隊員がモニターに映し出された地図を指さす。

「なんでも、毎日真夜中に唸り声が山奥から聞こえてくるとか。他にも、唸り声の聞こえた次の日に巨大な足跡が残っていたりするらしいの」

「怪獣か。宇宙人が……」

ハヤタはモニターを見ながら考える。

「とにかくハヤタ隊員！調査をお願い」

「了解。明日、向かうとしよう」

「これです。これが巨人様の祠です」

ハヤタは祠を見るために山奥へと来ていた。

祠は石で造られた小さなものだった。

「この祠の周りは草が生えないんですよ」

案内人に言われ、ハヤタ祠の周りを見る。

祠の周りには草が生えるどころか、落ち葉や木々の小枝さえ落ちていなかった。

「これは……これには理由があるんですか？」

「科特隊の人には笑われるかもしれないが、古い文献にこのことが書いてあるんですよ」

「いえ、話してください」

「はい。なんでも、ここは巨人様が降り立った場所なんだそうで。ここに巨人様が足をつけたから、草が生えないんだと」

ハヤタは祠を見つめる。

「ウルトラマンなのか……？」

その時、一瞬、地面が揺れた。

「な、なんだ!？」

静まりかえる山。先ほどまでさえずっていた鳥たちの声もしない。

そして、

ヴオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
オ……………

「き、麒麟だあああ!!!!!!」

「麒麟?」

「あの唸り声の主ですよ!真夜中に鳴くのと同じです!!!でもなんでこんな昼間に!？」

「麒麟は中国の霊獣、伝承の生き物がなぜ……」

次回に続く。

第1章「Second Coming of Giants」? (後書き)

いかがでしたか？

前作のAfterstoryとして動き始める物語。
ぜひ、最後までお楽しみください。

ちなみに、読んでわかるとおり、ウルトラマンのオリジナルストーリーです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4963z/>

ウルトラマン～Firstcontact～ 光の幻影

2011年12月16日21時56分発行